

4. 本校の教育目標

1. 経営理念

- (1) 学校は「子ども」のためであることを忘れない。(熱意, 愛情, 使命感をもった教師)
- (2) 教職員は絶えず研鑽に努め, 指導力を高める努力を惜しまない。(OJTの推進)
- (3) 主任を核とした組織的な対応を心がけ, 全教職員の共通理解, 共通実践の浸透を図りながら, 一人一人の学校運営への参画意識を高める。(組織としてのまとまり, 報・連・相の徹底)
- (4) 保護者や地域住民と連携しながら, 「信頼される学校」づくりに努力する。
(知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成)
- (5) 学校評価(内部, 外部, 関係者)を定期的に行い, 学校運営の改善に役立てる。
(P→D→C→A)

2. 教育目標

- (1) 校訓 「自主協同」(進んで学習する なかよく助け合う)
- (2) 学校教育目標「一人一人が輝き, 共に生きる高松っ子の育成」

3. 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ①児童は, 指示されたことについては真面目に取り組む。相手を意識して話したり聞いたりする力は徐々についてきたが, 考えを自分なりの言葉でまとめたり, 課題に対し最後まで粘り強くやりぬいたり考えたりする姿勢にまだ弱さが見られる。
- ②児童は明るく素直で優しく, 挨拶は随分よくなった。しかし, まだ全員というところまでしていない。時と場を考えた適切な言葉遣いができることが課題である。
- ③相手を傷つける心ない言葉を言ったり, すぐ手や足が出るなど乱暴な行動をとる児童もいる。心を耕す働きかけが必要だ。
- ④休み時間になると, 体育館や運動場で遊びや運動に親しむ児童の姿が見られる。だが, 遊ぶ子は限られており, 全校にまで広まっていない。
- ⑤教職員は, 児童の成長を願って前向きに熱心に取り組んでいる。ただ, 報・連・相が組織として弱いので, 主任を中心として組織的・機動的な対応ができるようにしたい。
- ⑥保護者や地域の方は, 学校の教育活動に対し理解を示す方が多く, 学校への協力的な活動が多く見られる。しかし, 批判的な意見もある。事あるときは, 保護者への迅速かつ丁寧に対応を教職員で共通理解し進めていきたい。

(2) 児童に関する目標

- ①学力の定着を図る中で, 主体的に友だちとかかわり合い, 学び合う児童を育成する。
- ②思いやりの心もち, 仲よく助け合い, 最後まで頑張りぬく児童を育成する。
- ③基本的な生活習慣にも目を向けながら, 健康なからだづくりをする児童を育成する。
- ④国際社会に生きる日本人として, 地域の伝統や文化にふれ, 地域を愛する児童を育成する。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ①児童を愛し, 児童の成長を喜びとする教師集団をめざし, 自己研鑽に努める。
- ②報告・連絡・相談を忘れずに, 組織としてのまとまりを大切にする学校でありたい。
- ③家庭・地域と連携し, 信頼される教師集団をめざす。

4. 短期経営目標（今年度の重点目標）

- (1) 基礎・基本の確実な定着・向上と活用力の育成
- (2) 思いやりのある優しい豊かな心の育成
- (3) 健康づくりと体力・運動能力の向上
- (4) 開かれた学校づくりの推進

5. かほく市学校教育目標と本校の重点的な取り組み（◎－重点）

- (1) 確かな学力の育成と学ぶ楽しさを実感できる授業づくり
 - 学校研究の充実を通して、全教職員の共通理解・共通実践を図り、学校全体の指導力（学校力）を向上させる。
 - 授業や生徒指導等について、校内で特に若手教員を育てる。（若手研の開催）
 - 学習への意欲を高め、主体的な学習態度を育むために授業を工夫する。
 - ◎1時間のタイムマネジメントを意識し、ねらいを達成する授業の実践に努める。
（課題の工夫、学び合う場の設定、まとめやふりかえりを意識した授業づくり）
 - ◎基礎基本が身につけていない子の指導に力を入れ、学力の底上げを図る。（中間層も）
- (2) 児童生徒の生活習慣及び学習規律の定着
 - 学習への構えが定着するまで、全校で強化徹底週間を設けて取り組む。
 - ◎就寝時間や食事など基本的な生活習慣が身につくよう家庭に粘り強く働きかける。
 - 家庭と連携した読書活動をより推進する。（家庭読書の日）
 - ◎家庭学習強化週間を定期的に設け、学習の習慣化を図る。（学年×10分）
- (3) いじめ、不登校や問題行動の防止と心の教育の推進
 - 日頃の児童観察、児童理解に努め、いじめや登校渋り等気になることがあればすぐ対応する。
保護者へ連絡・相談も迅速に行う。（学年で、全校で組織的に取り組む。）
 - ◎「いじめ対策チーム」を中心として、現状と課題を認識し、課題の迅速な解決に向け積極的な提案や組織的な取り組みを行う。（報告―連絡―相談の徹底）
 - 支援を要する児童について、随時児童理解の会を開き職員で共通理解する。必要に応じて、外部機関と連携して支援のあり方を検討する。
 - 心に響く道徳の授業づくりに努めるとともに、全教育活動で道徳教育を推進する。
 - ◎各学年の実態に応じた指導の重点をはっきりさせ、計画的な指導を心がける。
- (4) 学校安全対策の向上と学校施設の整備
 - ◎各種の便りをタイムリーに発行することで、学校からの情報発信に努める。
 - 学校に対する保護者や地域の方の声や意見などをよく聞き、迅速かつ適切に対応していく。
 - 児童の安全意識を高め、自分で安全に行動できるよう継続して指導していく。
 - ◎児童や職員が非常時に即座に行動できるよう、避難訓練、集団下校の訓練を増やし意識を高める。
 - ◎避難所としての学校の役割を意識して、実態にあった防災マニュアルを作成する。
- (5) 異学年交流活動の充実
 - ◎全校で、遊ぶ時間や運動に親しむ時間や場を計画的・意図的に設定する。
（なかよし班の活動充実、体育委員会のスポーツ奨励イベント等）
 - それぞれの学年が、役割を果たしながら楽しく活動できるよう内容を工夫し、協力することの大切さを実感させる。
 - ◎特に6年生がリーダーとして活躍できるよう、全教職員が意図的に指導して育てる。